

異年齢集団の遊びの場の提供を通し、施設の 養育機能を地域子育てに生かす

地域の子ども達や親を対象として、子ども集団、親と子どもの遊びの場を提供し、集団遊びや遊びの伝承を促す取り組みをしている。友達と触れ合う時間や場所がなくなり、遊びの種類の希薄さが生じてきている現在の子ども達に、玩具を作ることとその遊び方を教えることで、友達と共にものを作り遊ぶ楽しさや、親子でものを作り遊ぶ喜びを感じてもらえる時間や場を作る支援を目的としている。

京都府

社会福祉法人

みねやま福祉会

〒627-0024 京都府京丹後市峰山町室27-2 (峰山乳児院付設幼児寮)
TEL: 0772-62-1251 FAX: 0772-62-3775

○法人設立日年 / 昭和27年

○法人実施事業

- ①経営施設数合計: 12施設
②経営施設・事業【種別毎の数】:
乳児院…1、児童養護施設…1、保育所…2、
障害児通園施設(児童デイサービス事業)…2、精神
障害者地域生活支援センター…1、特別養護老人ホー
ム…2、老人短期入所事業…2、老人デイサービス事
業…2、在宅介護支援センター…1、老人居宅介護等
事業…2、居宅介護支援事業…2、訪問入浴介護事業
…1、身体障害者居宅介護等事業…1、児童居宅介護
等事業…1、知的障害者居宅介護等事業…1、認知症
対応型老人共同生活援助事業…2、小規模多機能型居
宅介護事業…1、子育て短期支援事業…2

○法人の理念・経営方針

- <理念>
・創設の理念を尊重し より質の高い福祉サービスの
提供
・地域の人々の ころろ豊かで安心・安全な暮らしへ
の貢献
・誇りと夢を持ち 福祉の仕事にまい進できるよう職
員の幸福追求
<サービスの質(品質方針)>
・私達はサービス提供のすべての場面で「管理より生
活を」大切にします
・常に正しい情報の把握と提供に努め自分が受けた
サービスの提供・改善に努めます

○取り組みの法人での位置づけ等

法人の年間重点項目の1つに「地域への貢献」が明記され、地域に内在する福祉ニーズに最接近する事業計画が事業所内で「地域貢献の取り組み」として位置付けられている。

○取り組みを実施している施設の概要

【施設名】
峰山乳児院付設幼児寮
【施設種別及び利用定員】
児童養護施設 25名(入所児の年齢2歳~6歳)

○活動内容

- ◇活動開始年
平成20年11月
◇活動の対象者:
地域の年長児~小学校3年生まで
◇活動の頻度・時間:
月に1~2回(14:00~17:00)、長期休みは
1週間に1回(9:00~12:00、14:00~17:00)
※1回あたり3時間

活動実施の背景、実施にいたった理由

共働き家庭の増加に伴い、市の学童保育の希望者が多く利用できない子ども達がいた。子どもの放課後の状況は、祖父母と共に過ごす、一人で留守番をする、という子どもが多くなっている。

その様な中で、「子どもが安心して過ごせる地域」と言われるようになるための支援の糸口になる取り組みを開始することとした。子ども達の遊びもゲーム、パソコン、イベント通い等が中心となっている。さらに、低年齢層から塾や習い事に通うことで、友達と触れ合う時間や場所がなくなり、遊びの種類で希薄さが生じてきている。購入したものでの遊びではなく、玩具を作ることとその遊び方を教えたり、日本古来の遊びを伝えたりすることで、友達と共にものを作る楽しさや、親子でものを作る喜びを感じてもらえる時間や場になれば、と考えた。

児童養護施設は広域型の生活施設だが、職員が地域の住民や子ども達と関わり、その専門性を生かした取り組みをする事で、施設の理解にも繋がり、地域の社会資源としての役割を果たせるとも考えたのである。

実施内容

名称を「のびっこクラブ」とし、毎月1回水曜日の放課後に実施し、長期休暇中(夏休み)は週1回開くこととしている。申込みは随時受付けており、参加者は登録制としている。欠席の場合のみ連絡をしてもらう。関わるスタッフは保育士、児童指導員の固定のメンバー(3~4人)で、子どもとの信頼関係を築き、子ども達と何がしたいか等を相談し、子どもの意見を尊重して次に取り組むことを皆で決めていく。

プログラムは、ゲームや自由遊びを取り入れながら、季節にあった手作りの物を作ることが毎回の内容である。クリスマス、正月の置物づくり、手作りおやつ、たけのこ掘り、エコグッズ等、施設の資源を活用して取り組んでいる。中には、毎回出席される保護者の方もいる。日本古来の遊びと一緒に

して、子どもと工作作りの出来栄えを比べてみて、楽しまれている。

殆どが子どものみの参加なので、保護者の方に安心してもらえる様に、毎回子ども達の全体の活動内容が分かる様なお便りを持ち帰ってもらっている。

活動効果 (利用者や職員、地域などの反応、影響)

施設の年度目標にも掲げていたので、職員の中では地域貢献の活動としてスムーズに取り組みを開始することができた。利用者も施設の近くの子どもから少しずつ広がっていき、区外からも参加させてほしいとの問い合わせがある程になった。現在、約20名の利用者で、子ども達も参加を継続している。

まだ実施回数が少ないので、地域の反応や影響についてまで評価をするのは早いですが、施設を知ってもらえる良いきっかけにはなったと言える。また、保護者からは「回数を増やしてもらえないか?」、等の問い合わせが出てきており、子ども達からは「習い事と重なる!」との苦情が出ることもあった。これらの嬉しい訴えからも、活動に対して満足を得ていただいているものと考えている。特に手ごたえがあったものは、子どもと楽しめる『手作りおやつ』の活動である。「レシピを教えて欲しい。」との要望もあり、職員の専門分野ではないものの、子どもと楽しんで作れるおやつを考えた結果それが好評であったことについては、スタッフの自信にも繋がったのではと思う。

今後の課題及び展開

学校とは別の場所として、子どもが家庭の中に引きこもることのないような支援をしていきたい。

現在は、プログラムなど予定を事前に伝えて活動することが多いが、子ども達に「のびっこクラブに行けば何か楽しいことがあるそう!」とワクワクさせる様にしていきたいと考える。さらに、子ども達が施設に来て何もしなくても「ホッ」とできるような場所になればと思う。特別な支援の必要な子どもには、保護者にも一緒に来てもらい、専門スタッフと共に、子育ての楽しさを感じ、子育ての疲れを軽くする心の持ち方などを考える

等、問題解決の支援をしていきたい。また、様々なプログラムの提供を通じて、子ども達の得意なことを見出し、そこから自信を持って色々なことに挑戦が出来るいきいきとした子どもへと成長していく手助けができれば、と思う。利用した子どもが思春期の時期に悩みにぶつかった時、門を叩いてくれる様な関係作りができる支援をしていきたい。地域、施設の子どもや大人が一体になり子育てのできる地域になっていけたらと思う。

限られた人数、環境の中で、目的とする展開がどこまで出来るかは分からないが、職員の持つ力を発揮することで地域へ貢献し、そしてこの取り組みを通して、施設で生活している子ども達をしっかりと地域の一員として位置づけていきたい。

主な経費や財源及び人員等

(年間あたり)

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
おやつ	32,000円	施設負担額	44,000円
工作材料	12,000円		
<合計>	44,000円	<合計>	44,000円

- ・ 取り組みに係わった職員数 3～4名
(職種等：保育士、児童指導員)

